

2023 新春対談 なんだかんだ言っても 町田が一番

町田の魅力再発見

問 広報課 ☎724・2101



1万人以上が挑戦した 『まちだ謎解きゲーム』

石坂 明けましておめでとうございます。昨年7月から、町田市内の観光拠点や商店街のにぎわい創出を目的とした『まちだ謎解きゲーム』が実施されています。第1弾は、1万人以上(2022年10月29日集計)が参加しました。

松丸 SNSでの反響も大きくて、市外から謎解きのために町田を訪れた人も多かったようです。僕もあちらこちらで「町田の謎解き、面白かった」と声をかけてもらいました。

石坂 謎解きキットを持って歩いている人をよく見かけます。私もキットを購入しましたよ。登場人物とスマホでやり取りをしながら解いていく回遊型というのがいい。町田のいいところを見つけながら歩く楽しみがある。

松丸 謎解きを仕掛ける上で大切なのがロケーション。回っていて楽しい場所、思い出を作れる場所であることが重要です。町田にはそれがたくさんありました。アンケートでは、9割の人がまた町田に行きたいと回答しています。



町田のここがスゴイ!

松丸 ところで、市長が町田の中で一番好きな場所はどこですか。

石坂 どこも素晴らしいですが、一番と言われれば薬師池公園です。私が生まれ育った地域でもあり、小学校の遠足もそこでした。

松丸 2月12日まで開催されている第2弾のルートに、その辺りが入っています。

石坂 では第2弾もぜひ挑戦しましょう。松丸さんは、今回のゲームの企画が決まって、初めて町田にいらしたのですか？

松丸 いえ、中学時代に仲のいい友人が町田に住んでいて、よく遊びに来ていました。一緒にリス園にも行きましたね。とはいえ、今回、リサーチで町田をくまなく回って、改めて素敵なまちだと思いました。駅前に商業施設があって都会的で、にぎやかな商店街もあって、郊外に行けば豊かな自然もあります。贅沢な環境だなと羨ましくなりました。

石坂 そういう町田のよさを、内外に発信す

るために必要なのはコンテンツを充実させることだと私は思っています。例えば、今回の謎解きイベントもそうです。マスコミやSNSで取り上げられて、どんどん広まっていく。それで、市外の人に町田をアピールできるのはもちろんだけど、住んでいる人も、もっともっと町田が好きになって、自慢したいまちになっていくのだと思います。

さらに魅力的な町田になるために

松丸 コンテンツを充実させるという観点では、他に何か取り組んでいるのでしょうか？

石坂 2018年~2021年に「まちだ〇ごと大作戦」を実施しました。皆さんから「〇〇をやりたい」という思いを募集して、市が支援を行うというものです。ポイントは、新しい仲間や団体とコラボをして実施するという項目を盛り込んだこと。新しい人と出会い、つながることで、新たな価値や活力が生まれました。

松丸 僕も会社の代表を務めているので、そのお話は参考になります。チームにいつもと違うメンバーが入ったら、アイデアの幅が広がりそうですね。自分のやりたいことを叶えられたり、それまで関わったことがない人たちとプロジェクトを作り上げたりするのって、いわば多様性を認め合える環境ですね。

石坂 多様性を認め合う環境をかみ砕いて言えば、「どんな生き方の人も、受け入れてくれるまち」であり、そういうまちがこれから伸びていくのだと思います。その一環として、町田市では「子どもにやさしいまち条例」の制定に向けて動いているところです。

松丸 それはどのような条例ですか？

石坂 これからみんなに考えてもらうのです。市内在住の小・中学生と高校生合わせて1500人、18歳以上2000人にアンケートを実施して、子どもにやさしいまちについて意見を伺ったところです。

松丸 子どもも条例づくりに関われるなんて、ワクワクするでしょうね。僕は、小さい時から自分で考えて何か作ることが大好きでした。初めから全部決まっているとテンションが下がってしまうんです。だから子どもが自由に発言できたり、アイデアを尊重してもらえると聞いて、何だか嬉しくなりました。

子どもたちへのメッセージ

石坂 松丸さんにとって、理想的なまちは、どんなまちですか。

松丸 憧れるのはオランダですね。実はオランダは、脱出ゲーム大国。いたるところに脱出ゲームがあるんです。しかも、裏路地の看板などもどこことなく謎めいていて、まるでRPGの

冒険の世界に入り込んだよう。日本にも、そこかしこにミステリーが隠されているようなまちがあれば楽しいでしょうね。

石坂 そんなまちならば、子どもは自分が住むまちが大好きになりますね。私は子どもたちに、とにかく町田を大好きになってほしいと思っています。自分のまちが好きになれば、まちのために力になりたいと思うでしょう。そのためには、子どもたち自身が町田全域を歩いて体験すること。そうすればきっと、好きな場所が見つかりますよ。

松丸 僕も何かを好きになるのは、大切なことだと思います。僕が謎解きの問題を作り始めたのは小学3年生の時。以来、ずっと夢中でした。幸い親は、将来何の役にも立たない謎解きなんてやめて、勉強しなさいとは言いませんでした。僕自身、まさか謎解きクリエイターが仕事になる日がくるなんて思ってもみませんでした。好きなことを突き詰めれば、大人になったときに、自分にしかない特技や個性になっていきます。誰に何を言われても、評価されなくても、自分を信じて、好きなことに熱中してほしいですね。

石坂 松丸さんのお話にあったように、今すぐに役に立たなくても10年経ってそれが役に立つことだってある。自分の好きなことをやる。それがいつか、自分のためだけでなく、みんなを楽しませることや、社会をよくすることにつながるかもしれませんね。



松丸 亮吾(まつまる りょうご)

テレビなどさまざまな分野で活躍中の謎解きクリエイター。『まちだ謎解きゲーム』を企画・制作したRIDDLER株式会社の代表取締役。



新春対談の様子は、
町田市公式動画チャンネルで
公開しています

市長の新春挨拶はこちら



『まちだ謎解きゲーム第2弾』
2月12日(日)まで開催中!